様式1

令和4年度　学校評価表

学校教育目標	志高く　未来を拓く　高西中教育　～自立・協働・創造～

a　ミッション	中学校区で取り組む「高西・志プロジェクト」の推進	a　ビジョン	高い志とふるさとに誇りを持ち「知りたい・学びたい・挑戦したい」があふれる学校 ・ふるさと学習、キャリア教育を推進する学校　・生徒の可能性を引き出し、磨き、高める学校 ・安全で安心して任せられる学校　・教職員がやりがいを持って活動している学校

尾道市立高西中学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
ー小中連携「志プロジェクト」で心ひとつに未来をつくるー	目指せ！ 「自立」 「協働」 「創造」 ～生活と学習のＰＤＣＡを回せる生徒の育成～ ⇩ １５歳の 自立と自律	授業改善の カリマネの推進 ⇩ 小中連携「志プロジェクト【学力】」の推進 ＋ 「主体的、対話的で深い学び」の実現 ⇩ 学力の向上	①一人1回研究授業、逆向き単元構想図の作成 ②生徒の実態に合わせた、主体性を引き出す工夫 ③見方・考え方を働かせ、深い学びを引き出す工夫 ④対話的な学び合いを実現し、表現力を育成する工夫 ⑤学力分析と改善計画⇒実行 ⑥小学校との互見授業・交流の実施	①達成率	100%	100%		100%	A	・つけたい力や、働かせたい見方・考え方などを明確にした指導案や逆向き単元構想図が作成できた。 ・次回の授業研や、日頃の取り組みについて、グループでしっかり交流ができた。 ・授業研において、討議の柱や学びのピクトグラムが意識できるような説明や掲示ができた。	3			・「高校に進学する」生徒がほぼ１００%であり、高校によって違う傾向と対策に全て対応していくのは難しい上に、入試方法の変更により、学力だけで何とかなる問題ではなくなった。一人ひとりへの指導は難しいと思うけれど、うまくやっていただければと思う。これから先、面接もあるし、「表現力」はこれからも必要になる。思っても話せない子もいるので、いかに表現をしていくかだと思う。 ・スマホの時代で、絵文字もあり、話さなくても思いが通じる時代において、コミュニケーション能力をつけることは大切であり、自分が思っていることを相手に言葉で伝えるのが難しいということを分からせる意味でも「５人で面接」は素晴らしい。	○生徒の学習への意欲を高め、自ら学びを調整するために、ファシリテーターとして教員の指導・支援をより明確に、具体的にする。 ○取組の目標設定を行い、広く、継続的に実践されるようにする。 ○生徒自身が、その学び方に、どのような効果があるかを理解・実感できるような手立てを行う。 ○これまでの授業実践を整理し、まとめたものをもとにして、教職員一人一人が自身の授業の実態を分析し、新たな取組に挑戦できるようにする。
				②生徒アンケート 「課題をやってみたいと思う」肯定的評価 ③生徒アンケート 「比較・分類・関連付けで考えている」肯定的評価	80%	②76% ③78%		96%	B	・本質的な問いや学びのファシリテートについて、校内研修で確認することができた。 ・思考ツールの活用、比較・分類・関連付けについて校内研修で確認できた。 ・電子黒板等ICTの知識や活用に教員間の差がある。 ・思考ツールについて、各教員で日常的に活用しきれていない。					
				④生徒アンケート 「考えと理由を相手にわかりやすく伝える」肯定的評価	85%	77%		91%	B	・学習委員による模範動画を作った。 ・話し合い活動、表現の型についての掲示物を作成し、意識を統一することができた。 ・日常的に、掲示物を活用し、定着させることができていない。					
				⑤⑥実力テスト（３年） 標準学力調査（１･２年）	全国比 ＋３P	3年 ＋0.8P 2年 ＋3P 1年 ＋2.7P		72%	C	・テスト後に、学力分析を行い、各教科の授業改善の計画をたてることができた。 ・実力テスト（３年）は、全国比に対して下回る教科もあった。１、２学年の内容を忘れている課題があるため、家庭学習を含め、復習を強化する必要がある。					
		特別活動（集団づくり）のカリマネの推進 ⇩ 特別活動の３つの軸の充実 ＋ 小中連携「志プロジェクト【キャリア】」の推進 ⇩ お互いの個性を認め合い、互いを高め合える集団づくり ⇩ 自己実現力の向上	①自己実現力の向上【自立】 ・「学びの地図」の活用 ・「いきナビ」の推進 ・フォーサイト手帳の活用 ・キャリアノートの充実 ②学級力向上プロジェクトを軸とした取組【協働】 ・学級力アンケートの実施 ・パワーアップアクションの策定 ・高西ミーティングの実施 ③生徒と共に創る生徒会活動と学校行事【創造】 ・専門委員会の定期的な実施 ・よりよい学校づくりに向けた話し合いの充実 ・学校課題を改善するための委員会活動の考案	①生徒アンケート 「自分の夢や目標、「なりたい自分」に近づくことができている」と回答している生徒の割合	70%	68.5%		98%	B	・「なりたい自分」を決め可視化し、節目節目で立ち返り、その実現に向けて取組を進めることができた。さまざまなロールモデルと出会う中で、自分の生き方を考える「いきなび」を実施し、生徒が自立的に自己実現するきっかけづくりができた。また、学期の始めと終わりには高西版キャリア・ログ「学びの地図」において、どのような力がついたか資質・能力を視点に振り返りを行った。課題については、キャリアカウンセリングを行い、生徒の「なりたい自分」に近づくための支援やアドバイスを行いながら、見直しをしていくことである。	3			・「なりたい自分」に対して、どんな努力をしたかなど、大切なのは自己評価であり、どれだけ近づけたのかを説明するなど、学期に１回取り組むことが大切だと思う。 ・ロールモデルと出会わせる「生きナビ」は、コロナ禍で地域と関わりがとれなくなっている今、とてもいい取組だと思う。ただ、講師を探すのが大変だと思う。かつて、ＰＴＡで人を呼んでいたことがあるので、その辺りを活用できたらいい。 ・（失敗を恐れる現状があることから）若い時にしか失敗はできない。大人になって失敗しても、立ち直れない。中学生のこの時期になんとか失敗をするような経験をさせたい。その失敗の経験から自分がどうその失敗を捉え乗り越えていくのかを考えることが必要である。 ・生徒総会の取組において、プロジェクト提案を決定する過程は、一種のディベートみたいなもの。自分がいいと思っていてもクラスの人が納得しないと決定にはならない。非常に良い取組である。	○学級力の向上について ・アンケートの活用にとどまらず、生徒の声（本音）や生徒からでた課題をもとに学級をよりよくしていくための話合い活動を仕組んでいく必要がある。そのために担任との事前の打ち合わせで確認したり、学級委員会での指導することで生徒の自治的な話し合い活動を展開したい。 ・パワーアップアクション（改善策）は決めることが目的ではなく、決めたパワーアップアクションを丁寧に実施していく。 ○自己実現力の向上について ・「いきナビ」を計画的に実施し、多様なロールモデルと出会うことを通して生き方に触れ、自分自身の生き方にせまることができるよう取り組む。また定期的な「キャリアカウンセリング」を通して、自分自身と向き合い、どう生きていきたいかを共に考える機会を設定していく。
				②生徒アンケート 「みんなで決めた目標やめあてに力を合わせて取り組んでいる学級です」と回答している生徒の割合 ②教員アンケート 「計画的に話し合い活動を計画しています」と回答している教職員の割合	90%	生徒 98.3% 教員 68.8%		93%	B	・どの学級も話し合い活動により「つくりたい学級（学級目標）」をそれぞれの思いや願いに沿いながら決定することができた。学期に2度行った「学級力アンケート」でも自分たちの決めた学級目標に立ち返りながら、課題解決に向けた「パワーアップアクション」を策定した。今年度は決めるだけでなく、決めたことをしっかりと実行していくことを意識して取り組んだことができている。課題としては、アンケートの数値だけでなく、自分たちの学級を本気でよりよくするために、生徒自身から自分たちの課題を検見し、改善していく営みを仕組んでいくことが必要である。					
				③生徒アンケート 「考えや意見を進んで出し合い、新しい発想や価値を出し合える学級」と回答している生徒の割合	70%	91.1%		130%	A	・生徒総会で合意形成したことをもとに各委員会で計画的に実施することができた。これまでの踏襲でなく、やることの目的を考えながら委員長を中心に活動を仕組むことができた。学級力アンケートでは、生徒も肯定的に回答している割合は多いが、「新しい発想や価値」を出し合うという点については、まだまだ不十分である。豊かな発想が受け入れる学級の風土づくりにこれからも努めていく必要ある。					
		働き方改革の カリマネの推進 ⇩ 役割遂行 （職能の向上） ＋ 教育の質を高める働き方改革の工夫 ⇩ チーム力の向上	○学校教育目標（最上位目標）の実現に向け、自己エンジンをもった役割（校務分掌）の遂行【自立】 ○一人一人が知恵を出し合い目標実現に向けてチームで協力する【協働】 ○新たな価値（改善策）を提案する【創造】	『教職員アンケート』において、「学校教育目標（最上位目標）の実現に向けて、役割（校務分掌）を遂行している」と回答している教職員の割合	90%	100%		111%	A	年度始めの面談を通じて、「学校評価」と「業績評価（自己申告）書」のつながりを意識させ、学校経営の一翼を担う自覚を促した。 今後、日常的なコミュニケーション等により、教職員一人一人のモチベーションの向上に努める必要がある。	3			・教員の数は足りているのか。今は教員になりたくない人が多いのではないか。先生方が心配だ。部活動を外部委託する等して、本来的な業務に専念できるようになってほしい。きちんとした教育をしていただくために教員の環境を整えてほしい。 ・助けてくれる雰囲気があるのと、業務量が多いことは違う。学校レベルでの話ではないが、このような状態では良い教員が育たないと思う。	○中間面談並びに日々のコミュニケーションを通じて、学校経営の一翼を担う自覚を一層促す。また、その成果と課題を教職員一人一人と共有する機会をもち、個々のモチベーションの向上及び職能成長を図る。 ○学校経営会議等を通して、学年部や分掌において、主任、主事のリーダーシップの下での、協働的なチーム作りを支援する。また、月に２回、金曜日を５時間授業とし、教職員の時間外勤務時間の縮減を図る。
				『学校の働き方アンケート』において、「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気があると感じている」と回答している教職員の割合	85%	96%		113%	A	学校経営会議をほぼ毎週定期的に開催した。そのことを通して、各分掌における実践において、校長の方針を踏まえ、主任・主事が自信をもってリーダーシップを発揮し、ブレない教育活動が協働して進められるようになってきている。					
	「学校は楽しい」「高西中学校に通わせてよかった」という生徒・保護者の割合：生徒９０%、保護者９０%														

学校教育目標の達成に向けた取組に、

【自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。